

八戸商工会議所

機関名	八戸商工会議所		
所在地	青森県八戸市堀瑞町2-3		
電話番号	0178-43-5111		
地域概要	(1)管内人口 240千人	(2)管内商店街数 22商店街	
事業の対象となる商店街の概要	(1)商店街数 11	(2)会員数 300商店	
	(3)空店舗率 11.2%	(4)大型店空き店舗数 2	
	八戸市十三日町商店街振興組合ほか10商店街（八戸中心商店街）		
商店街の種類	1. 超広域型商店街 2. 広域型商店街 3. 地域型商店街 4. 近隣型商店街		

【事業名と実施年度】

平成16年度	活性化対策事業	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかステージ事業 ・市民協働市街地活性化事業 ・商店街PR事業
	総事業費	10,409千円

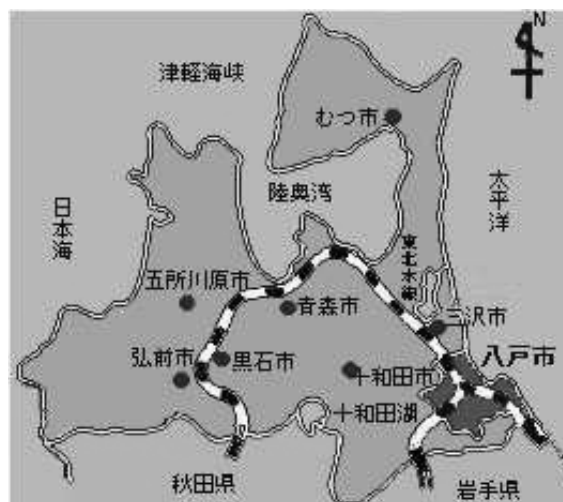
【事業実施内容】

1. 背景

八戸市は、東北新幹線や東北縦貫自動車道八戸線が横断し、国際物流拠点化推進港である八戸港もあるなど、広域交通物流ネットワークの中心として重要性が高い市である。

八戸市の中心市街地活性化基本計画による地域は、東は国道45号、西は国道340号・長根運動公園、北はJR八戸線、南は城下中居林線に囲まれた約140haの区域面積の地域であり、八戸中心商店街は区域の中核に位置している。

平成14年12月に開業した東北新幹線により、今まで皆無もしくは非常に少ないと考えられてきた観光客が多数同市を訪れるようになった。平成15年度には中心商店街において、新幹線開業を記念した通年イベントを開催し、賑わい創出による市民や観光客等の積極的な誘致を図った。同市の「顔」であり、まちづくりの観点からも重要な位置を占める中心商店街の活性化が今後の重要な課題であり、平成16年度は以下の事業に取り組んだ。



八戸市の位置（八戸市役所のHPより）

2. 事業内容

事業内容としては、中心市街地の車道を開放したイベントの開催や、学生のチャレンジショップ、商店街のポータルサイトの開設、市民店舗診断、まちなか講座の開設を行い、中心市街地のにぎわい創出に寄与した。

(1) まちなかステージ事業（イベント名「にぎわいストリートフェスティバル」）

新たな賑わい創出のため、交通規制を実施して市民にまちなかのスペースを開放し様々な催しを行った。唄や踊り、その他団体PRなど市民活動の発表の場として、道路を活用した。休憩場所としてストリート内にパラソルを設置し、ストリートカフェを開いた。

①開催日

- 第1回目 平成16年6月27日(日)12:00～16:00
- 第2回目 平成16年8月29日(日)12:00～16:00
- 第3回目 平成16年9月26日(日)12:00～16:00

②内容

1) 車道上でのパフォーマンス

大道芸・吹奏楽演奏・よさこい・バンド演奏・三味線・メッセージタクシー・犬猫ふれあい広場・演武会・消防車展示・白バイ展示等

2) 歩道・私有地でのパフォーマンス

にぎわい市場・お茶会・チャリティーバザー

③周知方法

チラシの新聞折込、新聞広告の掲載（デーリー東北新聞）、看板の設置



「にぎわいストリートフェスティバル」ちらし

(2) まちなか就業体験事業（レッツ学生チャレンジショップ）

商店街の中にある空き店舗を活用し、中学生（4名）・大学生（2名）が店主の指導のもと商品販売等の体験を行った。実際の社会・経済の仕組みを理解してもらうとともに、将来の地域経済を担う人材の育成を図った。

①日 時 平成16年11月8日（月）～12日（金）10時～17時

②販売商品 アジアン雑貨

③実施結果 売上金額・販売商品数・購入者数は以下のとおり（11月8日は研修日）

11月9日	15,000円	25品	40人	(来店者数)
11月10日	9,200円	32品	16人	(購入者数)
11月11日	5,440円	8品	5人	(//)
11月12日	12,740円	16品	11人	(//)

④周知方法 店内ポスター、店外看板

(3) 中心商店街ポータルサイト事業

(サイト名：まちなかどっとこむ)

「まちなかどっとこむ」は八戸市の中心商店街のポータルサイトである。町名・ジャンル・地図からお店を選ぶことができ、個店の詳細情報や商品（サービス）を写真付きで掲載し、広くPRした。

各個店が独自にページの更新（商品情報等の入れ替え等）を行うことができ、更新が新しい店舗の順番にトップページに登場するシステムを採用している。これにより各個店の情報更新意識が高まり、常に最新の商品情報が掲載される充実したHPとして多くのアクセスが期待でき、個店の販売促進等の有効なツールとなっている。



「まちなかどっとこむ」

- ①アドレス <http://www.machi-naka.com/portal/index.jsp>
- ②登録店 614店（平成17年3月31日現在）
- ③アクセス数 16,889件（平成17年3月31日現在）

(4) 市民店舗診断事業（みんなでつくる「まち・みせ」事業）

市民まちづくり班（10名）が主体となり、商店街内の個店の印象・接客態度・商品構成等の診断を行った。消費者の目から見た個店診断を実施するとともに、今後の店づくりにフィードバックすることで、市民に支持される魅力ある店舗の形成を支援した。

- ①調査期間 平成16年11月～平成17年2月中旬
- ②調査項目 以下の5点について診断調査を実施
 - ・店について（外観・店内の雰囲気、清掃状況など）
 - ・商品について（品揃え、価格、陳列など）
 - ・接客について（店員の挨拶、雰囲気、態度など）
 - ・良いところについて（評価できる点、これからも続けて欲しい点、伸ばして欲しいと感じた点など）
 - ・その他（気付いた点、店に対する意見・要望など）
- ③フィードバック 各商店街の事務局より、診断結果を各店へ配布し、今後の店舗運営の参考資料として活用

(5) まちなか講座事業

市民を対象に、商店街の各個店がそれぞれの分野に関する講座を実施した。市民に商品・サービス等の基礎知識を認知してもらうとともに、個店の再認識を促し、新たな顧客の増加と個店並びに商店街の活性化を促進した。

①講座日程 全11講座(7コース)

日時	午前の講座(11時～)	午後の講座(14時～)	夕方の講座(16時～)
2/22	「春のメーキャップ」 資生堂青森支社八戸営業所	「春のメーキャップ」 資生堂青森支社八戸営業所	「春のメーキャップ」 資生堂青森支社八戸営業所
2/23	「仏事マナー」 八田グループ	「薬と上手につきあう」 大学堂薬局	
2/24	「足と靴の健康」 ALGOOハシブン	「薬と上手につきあう」 大学堂薬局	
2/25	「フラワーアレンジメント」 お花の陽光園	「足と靴の健康」 ALGOOハシブン	
2/26	「日本酒の製造見学」 八戸酒類(株)八鶴工場	「美味しいコーヒーの入れ方」 香彩珈琲 みな実	

②参加者数 合計 203名

③周知方法 デーリー東北への広告掲載(2回)、街頭でのビラ配布

【 効 果 】

1. 来街者の行動

まちなかステージ事業(にぎわいストリートフェスティバル)を3回実施した結果、イベント開催がない通常の日曜日と比較し、3~4倍の通行量となった。このことから、中心商店街において定期的な賑わいを創出することは、集客に大きな効果があったといえる。

2. 情報発信機能

中心商店街ポータルサイト「まちなかどっとこむ」は、商店街の個店が自店で情報を更新することができ、鮮度の高い情報を発信している。開設から3カ月で約16,000件のアクセス数をカウントするなど閲覧状況も良好であり、ポータルサイトとしての情報発信機能を十分に果たしている。

3. 個店の認知度

まちなか講座では商店街の各個店が講師となり、個店及び取り扱い商品等について講義を行ったが、アンケート(回答者151人)の結果97%の方が「満足」と回答している。中心商店街における専門店や商品知識に対する認識が市民に浸透しつつある。

【 課 題 ・ 反 省 点 】

1. 事業費の確保

交通規制の実施に併せたイベントの開催は集客力がある反面、交通規制に関連する費用をはじめ多大な資金が必要である。今後商店街が継続的に開催していくためには、商店街単独での事業費負担は難しく、新たな事業費確保が課題である。

2. 店舗経営者に対する支援

市民店舗診断の結果、中心商店街の個店に対し消費者は様々な不満や改善要望を持っていることが明らかになった。今後消費者に支持される魅力ある店舗を形成するため、個店の取り組みを商店街や商工会議所等、関係機関が支援していく必要がある。

【事業の実施ポイント】

1. 交通規制を周知するための費用

交通規制による歩行者天国等のイベント開催は、交通規制に要する費用（主に交通規制の周知の為の広報費）が必要である。市民に充分認識され、広報費が最低限度で済む状況に至るまでは継続的なイベント開催が必要であり、行政等の支援が不可欠である。

2. 魅力ある個店形成に向けた支援

イベントで集まった市民を、自店の顧客とするための個店の取り組みが重要である。大規模な集客事業と併行し、商店街による販促ノウハウの研究・提供等個店レベルの支援事業が必要である。

【関連URL】

八戸商工会議所 <http://www.8cci.or.jp/>

まちなかどっとこむ <http://www.machi-naka.com/portal/index.jsp>